

# 社団法人日本新体操連盟

## 平成 20 年度第 3 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 20 年度第 3 回理事会
2. 日時： 平成 21 年 3 月 16 日(月)13 時 00 分～15 時 00 分
3. 場所： 東京都港区西麻布 3 - 2 - 3 2 「麻布霞会館・202 号室」
4. 構成員現在数： 19 名
5. 出席役員： 二木 英徳 (会 長) 朝倉 正昭 (副 会 長) 荒井 隆 (専務理事)  
石崎 朔子 (常務理事) 渡辺 守成 (常務理事) 池田真喜子 (理 事)  
岩本 晃 (理 事) 岡 久留実 (理 事) 谷口 裕代 (理 事)  
橋本 千波 (理 事) 藤島八重子 (理 事)  
福本 隆 (副 会 長) 関田史保子 (常務理事) 秋山エリカ (理 事)  
上村 郁子 (理 事) 崇島 慎一 (理 事) 谷原 誠 (理 事)  
山崎 浩子 (理 事) 田中 元 (監 事) 横田 章 (監 事)  
以上 18 名 (うち委任状出席 7 名)  
その他監事 2 名 (うち委任状出席 2 名)
6. 欠席役員： 高橋 明 (副 会 長) 以上 3 名
7. 議案：  
決議事項  
第 1 号議案 平成 20 年度第 2 回総会について(定款第 5 条、第 5 章関連事項)  
第 2 号議案 その他
8. 議事の経過及び結果
  - (1) 議長による開会宣言  
(社)日本新体操連盟・定款第 24 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。
  - (2) 議事録署名人の選出  
定款第 32 条により、議長は議事録署名人を荒井隆専務理事と藤島八重子理事にする事を議場に諮り承認された。
  - (3) 定足数の確認  
定款第 25 条の定めにより、理事会出席者数委任状含めて 18 名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
  - (4) あいさつ  
議長は挨拶をすませ、荒井隆専務理事が進行を務めるよう依頼した。

## 決議事項

### 第1号議案 平成20年度第2回総会について(定款第5条、第5章関連事項)

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

#### (はじめに)

平成21年度の事業計画と収支予算を決定する総会である「平成20年度第2回総会」を平成21年3月24日(火)11時より、東京品川にある日立金属高輪和彊館にて開催を予定している。当日のスケジュールは例年通り、11時総会、12時懇親会、13時30分よりセミナーとなっている。

内容は、平成21年度の事業計画、収支予算の決定。そして、平成21年22年の日本新体操連盟第4期役員改選についてである。総会の資料とともに説明していく。

#### 「年間事業計画」

年間スケジュールとしては平成20年度とほぼ同様である。変更点を挙げると、21年度では「新体操世界選手権」が三重県にて開催されるため、「イオンカップ2009」は行わず、「世界選手権」に協力していきたいと考えている。その他大会については大会要項の説明と共に行う。

#### 「クラブ選手権」

「第18回全日本新体操クラブ選手権」を8月25日から27日の3日間東京体育館にて開催予定。大会期間中のスケジュールは第17回大会同様に進行する予定である。なお、次の3項目について検討した。

#### (年齢基準)

国際年齢基準が2008年変更となった。そのため、12歳の選手がジュニアから外れた。単純比較はできないが、17回大会では12歳の選手を含んだチームは85チームあった。シニア・ジュニア含めて年齢構成を決定していただきたい。

#### (全日本選手権出場資格)

15歳以上を出場資格とする「全日本新体操選手権」への出場権獲得条件について同じく検討を願いたい。ちなみに「イオンカップ」は21年度開催しないため「イオンカップ2009」への出場権獲得はなしとある。

#### (種目)

種目は21年度のシニア・ジュニア共通種目のロープ、フープ、ボールを2部リーグの種目として採用している。

## 質疑・報告

#### (年齢基準)

二木会長より、なぜ国内と国際の年齢基準が違うのかと質問があり、石崎常務理事が日本の学校教育は年度で学年を区切っていることが関係していることが説明された。

二木会長より、国際基準に合わせてはどうかと提案があり、体操の例や、「イオンカップ」への出場権を考え、国際年齢 シニア16歳以上、ジュニア13歳から15歳に合わせることに決定した。

#### (全日本選手権出場資格)

岡理事より、例えば得点配分的に不利なジュニア選手の得点が、有利なシニアの選手より高い場合に、15歳の優秀なジュニア選手が救えなくなるので、現行方式の15歳ジュニア選手に出場権を与える制度を採用した方が良いとの提案があった。しかし、能力のある選手は体操協会主催の「全日本ジュニア選手権」で出場権を獲得できるため、「クラブ選手権」からでは16歳以上のシニア選手上位12名に加えて、シニア12位選手の得点より高い得点を獲得した15歳のジュニア選手を日本体操協会へ推薦することに決定した。

#### (種目・その他)

種目及びその他大会概要については提案通り決定した。

#### 「団体選手権」

「第9回全日本新体操クラブ団体選手権」を9月19日から20日の2日間東京体育館にて開催予定。なお、以下4項目について検討した。

(シニア・ジュニアカテゴリー)

確認事項として、第2回理事会で提案されていたシニア、ジュニアのカテゴリーを1つにまとめるかどうか検討していただきたい。

(種目)

第9回大会のシニアの種目を「全日本選手権」採用種目 フープ5を、ジュニア種目を「全日本ジュニア選手権」のリボン5を採用した。

(年齢基準)

「全日本クラブ選手権」で議題に挙げた年齢基準を国際基準にすることを踏まえて、「団体選手権」では年齢基準を現行の通りとするのか、もしくは国際基準に合わせるか検討いただきたい。なお、参考資料として第8回大会で小学生選手を1人でも含むチーム数は、72チームあった。

(全日本選手権出場権)

「年齢基準」が変更となった場合は、「全日本選手権」への出場権獲得条件を変更するかどうか検討いただきたい。

#### 質疑・報告

(シニア・ジュニアカテゴリー)

一つにした際の種目の選考、また、シニアの部が増えてきていることから現行通りのカテゴリーを採用することが決定した。

(種目)

提案通り、シニアの部「フープ5」、ジュニアの部「リボン5」を採用することが決定した。

(年齢基準)

国際年齢基準にした際のチーム数の減少を懸念し、現行の年齢基準を採用することが決定した。

(全日本選手権出場権)

カテゴリー・年齢が現行制度で採用することとなったため、出場権についても現行制度を採用することとなった。

#### 「日本新体操祭」

毎年「イオンカップ」と同時開催していた「日本新体操祭」であるが、平成21年度は「イオンカップ」を開催しないため、日本健康科学学会主催、東京都オリンピック招致委員会後援のイベント「日本健康科学学会第25回学術大会」にて開催する予定である。日時は8月29日、場所、東京体育館にて調整中である。期間中のスケジュールを変更して、最大参加チーム数を40から60チームへ変更した。また、そのため、事前練習をなしとしたタイムテーブルを組んだ。

## 質疑・報告

会長より、「日本健康科学学会」や「学術大会」の今までの活動などを調べ、「新体操祭」が「学術大会」並びに参加者へ迷惑なく開催できるように入念に準備するよう指示があり、その点を再確認することで提案通り決定した。

## 「チャイルド選手権」

21年度は、2月26日から28日にかけて東京体育館にて開催予定。開催方法、スケジュール等は20年度大会と同様に進める。ただし、ルールについては橋本理事より変更の提案が出ているため、21年度第1回理事会にて内容の精査、案内を7月下旬に送付予定である。

## 質疑・報告

橋本理事より、ルールの主な変更は3・4年生の部であること。順位なしの評価方法を検討している。なぜなら、指導者が勝つために無理に選手に演技をさせているように感じられるためであることの説明があった。

池田理事より、以前は各賞を授与する方式であったが、競技会として、順位方式に変更となった報告があり、また、会長より競技会なのだから順位方式が良いこと。指導者の問題は指導者の育成であり、競技会とは別として考えるものとの意見が交わされた後、ルールについては次回の理事会で議論することで原案通り決定した。

## 「セミナー」

セミナーの開催は毎年、元ソ連ヘッドコーチのクズミナさんにセミナー開催をお願いしている。しかし、クズミナさんが国際体操連盟・新体操技術委員となったため、今年に入ってから国内にいないことが多くなってきた。21年度についてはクズミナさんを基本線をお願いして行くが、新しい開催方法なども検討する必要がある。

## 質疑・報告

橋本理事より、自身が行った「チャイルド選手権・審判セミナー」において参加者を見ると、参加者は意欲がある。日本の現状を見ると、指導者はセミナーの重要性は理解しているのだが、実践をしていないものと思われると報告があった。会長より、教育などは根気よく続けることが重要であること。石崎常務理事より新しい人材の活用等を意識して考えていくこととの意見が交わされた。以上の質疑・報告の後、原案通り決定した。

## 「収支予算」

平成21年度より、新会計基準を採用することとした。収支予算書では新方式に合わせ、事業活動収支、投資活動収支、財務活動収支の3区分表記の様式にしてある。

前年度収支予算は新方式に科目を当てはめて作成している。

内容については大きく変化のあるところを説明する。

先ほどの説明の通り「日本新体操祭」は、21年度は「学術大会」の一部として開催するため、前年度より収入を1,000,000円減、支出を1,800,000円増で見込んでいる。なぜなら、例年通りの「イオンカップ」と同時開催ではないことから、「イオンカップ」観戦という特典がないことによる参加者減、スタッフ、備品等共同で活用できたものが単体で使用するための支出増である。

「イオンカップ」を今年開催せず、「世界選手権」にTV放映などのPR部門での協力のため、昨年度100,000,000円減の100,000,000円の支出を計上、収入に関しては、現在の経済状況などを鑑みて95,000,000円減の115,000,000円の収入を計上している。

DVDの販売が増えているため、収入を550,000円増の2,550,000円。販売増による制作費の増加で600,000円増の1,600,000円の支出計上している。

その他、新規の項目、投資活動及び、財務活動を本連盟は行っていないため0円計上。よって、事業活動収入計181,520,000円、事業活動支出計180,520,000円、予備費支出1,000,000円、当期収支

差額 0 円、次期繰越収支差額 0 円を今期の予算としている。

#### 質疑・報告

石崎理事より三重県で行われる「世界新体操選手権」との関係を質問され、渡辺理事より大会運営費用は実行委員会負担である。現状、TV放映が深夜枠もしくはBS枠などになってしまいそうなので、全国民に視聴されるような時間で調整していること。また、会場に看板などを設置し実行委員会へ協力することを検討していることが報告された。

以上の質疑の後、原案通り決定した。

#### 「役員改選」

荒井専務理事より、改選の途中報告として、公益法人制度改革に伴い5年以内に新制度へ移行しなければならないため、定款、役員など見直す必要が生じてくる。今回はその移行に備え最小限の役員改選を検討していることの資料報告があった。

#### 質疑・報告

第2回理事会にて、役員選考メンバーとして、二木会長、荒井専務理事が選ばれていることが確認された。

以上のような説明、質疑、報告がなされたのち「クラブ選手権」の年齢、全日本への進出資格を訂正し、その他原案通り決定した。

#### 第2号議案 その他

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

#### (5)閉会宣言

議長は他に質問、意見がないことを確認し、理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 21 年 3 月 16 日

社団法人日本新体操連盟 平成 20 年度第 3 回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 荒 井 隆

同 藤 島 八 重 子